

2021 年度前学期学生による授業評価アンケート総評

2021 年 8 月

浦安キャンパスファカルティ・ディベロップメント委員会

本総評は、2021 年度（令和 3 年）前学期に実施した浦安キャンパスにおける「学生による授業評価アンケート実施結果」について、各学部学科及び教育センターFD 委員による集計結果分析に基づき、全体の傾向と特徴、明らかになった課題及び今後の授業改善に向けた方策についてまとめたものである。

1. アンケート実施結果の概要

- (1) 実施期間 第 1 回 2021 年 5 月 17 日（月）9：00 から 5 月 29 日（土）23：55 まで
第 2 回 2021 年 6 月 28 日（月）9：00 から 7 月 10 日（土）23：55 まで
- (2) 実施対象 第 1 回 全教員、619 科目
第 2 回 全教員、625 科目
(ただし、ゼミの授業科目、履修者 5 名以下の授業科目及び再履修者のみが履修する授業科目を除く。また 1 教員あたり同一名称の授業科目が複数ある場合は、履修者最多の授業科目を対象とする。ただし、FD 委員長が必要と認めた授業科目は追加することができるものとする。)
- (3) 調査方法 Web 入力方式（スマートフォンやパソコン等を利用して、アンケート実施期間中の任意の時間に Web ポータルシステムから回答する。)
- (4) 評価方法 5 段階評価（5. 満足、4. やや満足、3. どちらともいえない、2. やや不満、1. 不満）
- (5) 質問項目 授業について 7 項目、その他（学生自身について）
- (6) 回答率 第 1 回 57.2%（延べ回答者数 15,980 人）
第 2 回 45.3%（延べ回答者数 12,659 人）
(回答率=回答者数÷履修登録者数：延べ回答者数)

2. 集計結果と分析

表 1 は 2020 年度後学期と 2021 年度前学期の各学科のアンケート回答率である。新型コロナウイルス感染症対策のため、対面での授業実施が限られた結果、多くの授業が manaba や zoom などを用いた遠隔で行われた結果、2020 年度は学生による授業評価アンケートの回答率が、アンケート開始以来、最も低く、全体平均は、2020 年度後学期第 1 回目が 28.5%、第 2 回目は 18.7%であった。

2021 年度に入ってから、感染症対策の継続が重要であったことから、学内人流を減らしつつ、教育効果の向上を図る方策として、①専門科目については学部別に対面授業と遠隔授業を交互に実施し、②人間力形成科目は一部を除き遠隔で実施し、③大学院、教職科目、そのほか各学部・センターにおいて指定された科目は毎週対面で実施し、③保健医療学部の授業は対面で実施することになった。つまり、アンケート回答期間が 2 週間あれば、そのうち 1 週間はすべての学部で対面授業回に該当する。そこで、アンケート回収率向上を図るため、実施方法について、「アンケート実施期間中に対面での授業実施がある場合は、その対面授業内でアンケート回答の時間を設け、履修者にアンケート回答をするよう指示する。」との文を付加した。その結果、学期中にアンケートを 2 回実施するようになった 2019 年度後学期第 1 回 59.8%、第 2 回 51.2%には及ばないものの、2020 年度と比較して、回答率は飛躍的に向上した。

学科ごとの特徴もある。回答率が最も高いのは日本語学科で、2021 年度前学期は第 1 回が 82.8%、第 2 回が 80.1%である。第 2 回目の回答率が減少する傾向にある中で、減少率がわずか 4%ほどに留めている。英米語学科、中国語学科も減少率は 10%以内に抑えてら

れている。他方で、経済学科、不動産学科、HT 学科、口腔保健学科は第 2 回目の回答率がいずれも 40%前後と低く、その要因を分析する必要がある。また、口腔保健学科は第 1 回 65.9%から第 2 回 42.2%にまで減少しており、英米後学科の第 1 回 64.9%、第 2 回 60.2%と比べると減少幅が大きいことがわかる。

表 1 学生評価アンケート回答率 (2020 年度後学期・2021 年度前学期)

	全体	日本語 学科	英米語 学科	中国語 学科	経済 学科	不動産 学科	HT 学科	口腔保 健学科
2020 年度 後学期第 1 回	28.5%	32.0%	24.5%	50.6%	24.8%	25.6%	24.6%	55.8%
2020 年度 後学期第 2 回	18.7%	22.2%	15.1%	35.3%	17.9%	17.3%	16.1%	29.6%
2021 年度 前学期第 1 回	57.2%	82.8%	64.9%	75.5%	52.1%	50.9%	56.8%	65.9%
2021 年度 前学期第 2 回	45.3%	80.1%	60.2%	64.1%	37.7%	38.9%	40.4%	42.2%

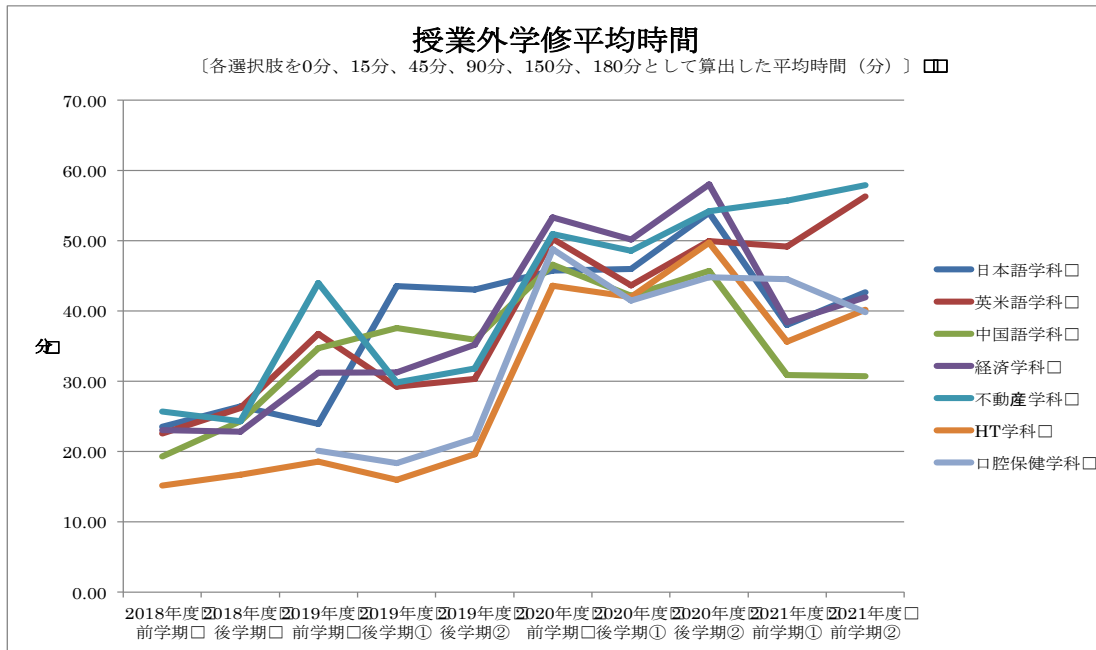
表 2・グラフ 1 は、学科ごとの授業外学習平均時間の推移である。口腔保健学科は 2019 年度前学期から、そのほかの学科は 2018 年度前学期から示した。選択肢は、ほとんどしなかった (5 分以内) /30 分未満/30 分以上 1 時間未満/1 時間以上 2 時間未満/2 時間以上 3 時間未満/3 時間以上、の 5 つで、それぞれの回答を 0 分、15 分、45 分、90 分、150 分、180 分として算出した平均値である。

グラフ 1 からわかるように、全体として 2020 年度後学期②までは増加傾向にあったが、その後の 2021 年度前学期①で傾向が分かれる。不動産学科と英米後学科は、変わらず増加傾向を維持しているが、口腔保健学科は横ばい、日本語学科、中国語学科、経済学科、HT 学科は減少に転じた。その後、2021 年度前学期①から②にかけては多くの学科が増加する中、口腔保健学科は 5 分ほどだが短くなり、中国語学科は横ばいだが、最長の不動産学科 57.9 分の約半分の 30.72 分となっている。

表 2 学科別授業外学修平均時間

	2018 年度 前学 期	2018 年度 後学 期	2019 年度 前学 期	2019 年度 後学 期①	2019 年度 後学 期②	2020 年度 前学 期	2020 年度 後学 期①	2020 年度 後学 期②	2021 年度 前学 期①	2021 年度 前学 期②
日本語学科	23.53	26.40	23.91	43.54	43.00	45.75	45.93	53.99	38.02	42.67
英米語学科	22.56	26.20	36.74	29.24	30.32	50.24	43.63	49.95	49.13	56.27
中国語学科	19.30	24.30	34.69	37.56	35.89	46.57	42.15	45.70	30.89	30.72
経済学科	23.03	22.80	31.19	31.28	35.18	53.31	50.13	58.00	38.37	41.93
不動産学科	25.69	24.30	43.98	29.82	31.81	50.95	48.53	54.20	55.69	57.90
HT 学科	15.16	16.70	18.56	15.97	19.61	43.61	41.97	49.70	35.61	40.14
口腔保健学科	—	—	20.13	18.36	21.89	48.76	41.46	44.80	44.53	39.85

グラフ 1 学科別授業外学修平均時間（表 2 をグラフ化）



グラフ 2、3 は、アンケート項目に対する科目区分別の回答である。アンケート項目は、1 配布物は読みやすかったですか 2 課題の量はあなたにとって適切でしたか 3 授業の内容を自分なりに理解できましたか 4 教員の授業位に対する意欲や熱意は感じられましたか 5 教員の学生への対応（質問等）は適切でしたか 6 この授業で興味や関心が深まりましたか 7 この授業に対するあなたの満足度をお答えください の 7 項目である。

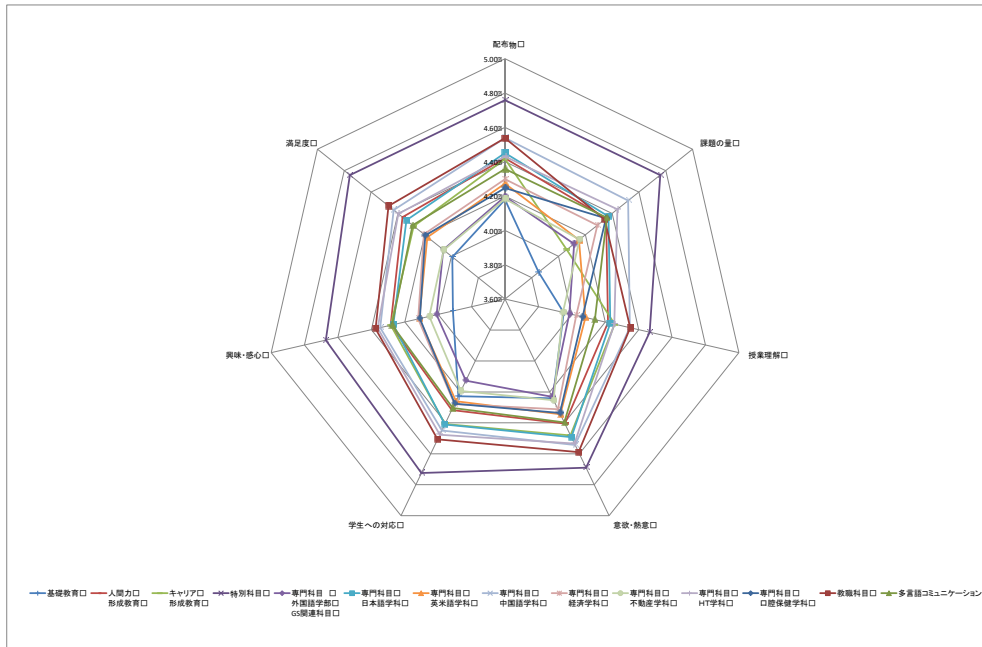
2021 年度前学期①（グラフ 2）では、3 点台が基礎教育で 4 項目あり、外国語学部 GS 関連科目と不動産学部は理解度が 3 点台であった。基礎教育は 7 項目中 5 項目で最も低く、他方、特別科目はすべての質問項目が際立って高い値である。

2021 年度前学期②（グラフ 3）では、3 点台が基礎教育で 2 項目のみに減り、特別科目は引き続き高い数値を示しているものの、それに迫るか、上回る科目区分も見られるようになった。中でも教職科目の数値の伸びは著しい。

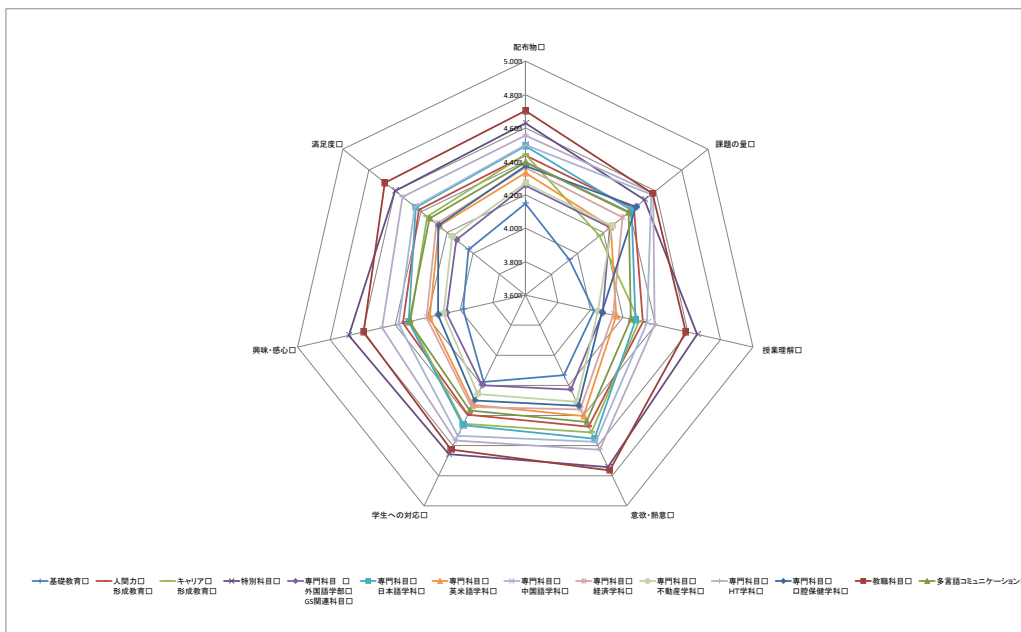
授業の満足度に関しては、特別科目は①4.76 から②4.60 に減ったものの、依然として高い値を示し、他の科目区分全てで①より②の方が上昇した。

専門科目（外国語学部 GS 関連科目を除く）だけを見ると、全ての学科で、理解度の数値が最も低い。逆に最も高いのは、日本語、英米語、中国語（課題の量と同率）、経済（配布物と同率）、不動産、HT で教員の意欲であったが、口腔保健学科のみ、課題の量が 1 位（4.45）、次が配布物（4.37）、その次が意欲（4.34）であった。

グラフ2 アンケート回答分布図 2021 前学期①



グラフ3 アンケート回答分布図 2021 前学期②



3. 明らかになった課題

授業評価アンケート実施の集計結果と分析に基づき、明らかになった主な課題は、以下の通りである。

(1) アンケート回答率のさらなる向上

アンケート回答率は、全面遠隔授業に近い状況であった 2020 年度に比較して、飛躍的に向上したものの、授業時間中に、アンケート用紙を配布して行っていた 2019 年度以前の水準には戻っていない。アンケート用紙は、配布されたらほぼ強制的に記入・提出が行われるが、ウェブでは学生本人が自らサイトにアクセスして入力する必要があり、しかもほぼ全ての授業でアンケートが実施されるため、授業評価アンケートへの回答は、学生にとってかなりの負担となっている。

アンケート項目の見直しと削減が行われたが、引き続きこの点についての検討が必要である。

また、第 1 回目に比べて第 2 回目の回答率が減少する傾向がある中、ほとんど減少しなかった学科と大幅に減少した学科とがあることから、アンケート実施方法についての情報交換が重要と思われる。

(2) 授業外学修時間確保の必要性

2021 年度前学期①は、多くの学科で授業外学修時間が 2020 年度後学期に比べて大幅に減少した。2020 年度は遠隔授業が非常に多く、学生が、「授業外」学修としてカウントしたものが実は授業時間内であり（家庭での学修を「授業外」としてカウントした）、2021 年度前学期は、隔週で対面授業が実施された結果、授業外学修時間が減少したとカウントした可能性があり、他の可能性等についても要因を分析する必要がある。

遠隔授業のみならず、対面授業においても、反転流授業は授業外学修時間確保に非常に有効であると考えられる。反転流授業を積極的に取り入れ、授業運営上の問題点や改善点などを議論する必要があると認められる。

(3) 2 回のアンケートによる授業改善度の検証

学期中に 2 回、アンケートを実施した結果、ほぼ全ての項目で、①より②が向上しており、2 回のアンケート実施が授業改善に寄与していることを示している。ただし、(1) で述べたように、学生の負担は増加していることから、対象とする科目を限るなどの方策を検討する余地がある。

4. 今後の授業改善に向けた方策

学生による授業評価アンケート結果は、授業改善のために非常に重要な情報である。しかしながら、学期中に 2 回アンケートを行うことは、学生にとっては重い負担となっていることは否めない。煩雑だと感じれば、アンケートの回答がいい加減になったり、また生真面目な学生だけがアンケートに協力するといった事態に陥り、授業改善の機会が失われかねない。

そこで、アンケート実施方法について、再度検討する必要性が高いと思われる。例えば、一人の教員が複数科目を担当していた場合、科目区分（必修かそれ以外か、単独か共同担当かなど）にもよるが、アンケート結果が類似の傾向になることが予想されることから、アンケート対象科目を絞り、学生の負担を軽減し、より回収率をあげ、より正確なアンケート結果を得ることで、より効率的な授業改善策を模索することが可能になると考えられる。

また、反転流授業を実施するため、manaba を積極的に活用して、学生に授業外学修の習慣を身につけさせることは、今後、働き方改革でテレワークなどが推進されるアフターコロナ時代に活躍できる人材を育てるためにも重要だと思われる。